

## 夏は子どもたちをひとまわり大きくしてくれました！

今年も、かっぱの登場ではじまったプールの取り組みは、カッパの登場でしめくられました。2か月たっぷり水とすごした子どもたちです。暑い夏、毎日プールに入れることに感謝！です。子どもたちにより良い環境をということでお父さんお母さんたちにも運営やバザーのご協力いただいています。幼児プールの組み立てと解体のご協力もありがとうございました。

## 夏の研修で学んだことを職員間で共有し保育にいかしていきます！

「保育や教育そして、人生はいつも創造的でなければならない 近藤薫樹」 「保育は創造です 秋葉英則」

今年の研修会でよく目にし、耳にしたことばです。職員会では年2回保育のまとめをしています。9・10月は半期のまとめの職員会がもたれます。ひとりひとりが保育実践をまとめ、職員間で深め合い、後半期の保育につなげていきます。合研と呼ばれている研究集会の基調報告の中に、どんぐり保育園が大切にしていることに通じる記述があったので園だよりで紹介させていただきます。

『保育の中で子どもたちはひとりひとりさまざまな姿をみせます。食べ物や居場所などに強いこだわりを見せたり、「友だちと遊びたいな」という思いをうまく出せないためにトラブルになったり、奇想天外な想像力でごっこ遊びを繰り広げたり。そうした一つ一つを「そういうこだわりは、人間が主体的に生きることのはじまりだよ」「そうか、友だちが好きになったんだね。すごい成長だよ。」「おもしろいことを考えたものだね。」と、ほほえましく見つめる保育者のまなざしを通して、子どもは自分の中に価値のある自分を見出していきます。そういうかわりの中で、「子どもは素敵な自分」に気づき、自分に誇りを持って自分をもっと立派にしようとします。そこに内面的な意欲や思いやりが豊かに育っていきます。

しかし、「次の段階の準備こそ教育」という見方に陥ってしまうと、「学校でのいい子」像が目前の子どもを受け止め評価する基準になってしまうでしょう。そして、もし「できる子」にしかほほえまない毎日にさらされるようになった時、子ども自身が自分を、そうした大人の目で評価し、自分への自信や肯定感を徐々に失っていきます。

乳幼児期にはその時期にしか学べない大切な学びと成長があるのです。毎日の生活やあそびの中の、一人一人のさまざまな姿の中に、その願いやあこがれや思いどおりにならないもどかしさなどそうした息づかいの中に、学びと成長の姿と可能性があることを私たちは知っています。そのことをはっきりととらえ、保育者と保護者の間で共有し、子どもをほほえましく語り合うことこそ、教育の中心にすえられるべきものです。』 「全国保育団体合同研究集会基調報告より」

## 名古屋市懇談が行われました

0歳児産休明け保育も、延長保育も、障がい児保育も、これまでの名古屋市との話し合いや保育運動によってこれらの願いが制度化され補助金制度が確立されてきました。今年も8月22日に女性会館において名古屋市懇談がもたれました。保育行政の後退がないよう毎年がもたれています。今年はどうぐり保育園からは父母4名職員7名が参加し、溝渕さんが発言をしてくださいました。今後も行政への働きかけを粘り強く行っていきましょう。

## 待機児解消と求められる新たな保育園

現在名古屋市では待機児童解消に向け待機児童が多い区において、家庭的保育室や賃貸型保育所(10年の整備計画)を進めています。緑の丘福祉会においても、待機児解消にむけてどう事業展開をしていくのか議論を進めています。

## 秋の署名活動をみんなで成功させよう！

全国で、公的責任を放棄する「子ども・子育て新システム」反対運動が展開された結果、市町村の保育実施義務が残された「子ども・子育て新システム修正案」が可決されました。しかし問題点の残る「子ども・子育て新システム修正案」を撤回するために今から開催される署名学習会に参加し、署名の意義を確信し、たくさんの署名をみんなで集めていきましょう。日本の将来の保育制度をどうにかたちで残すのが私たちに託されています。